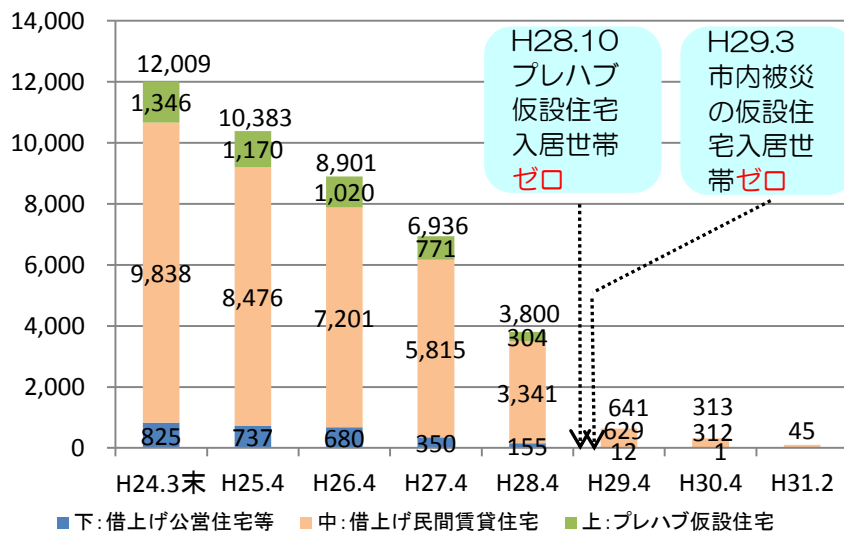




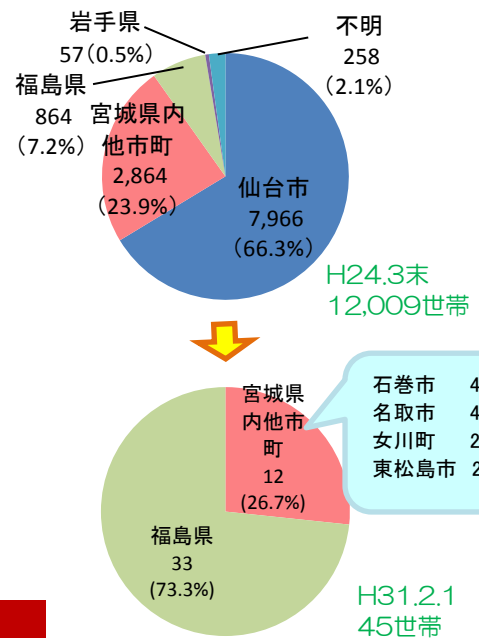
入居世帯の推移と震災時の居住地別入居状況

- ・市内の仮設住宅入居世帯は45世帯となり、ピーク時（平成24年3月末）の0.4%まで減少しています。
- ・市内で被災された世帯は平成29年3月末までに全て再建し、現在仮設住宅には市外で被災された世帯が入居されていますが、再建が着実に進んでおり平成31年4月時点の入居世帯数は30世帯を下回る見込みです。
- ・プレハブ仮設住宅は平成29年3月末までに全て解体され、市内の仮設住宅入居世帯は全て、借上げ民間賃貸住宅（みなし仮設住宅）に入居されています。

入居世帯の推移



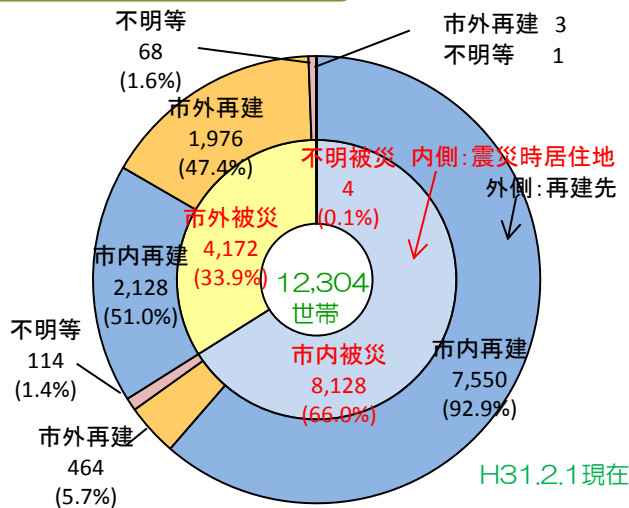
震災時の居住地別入居状況



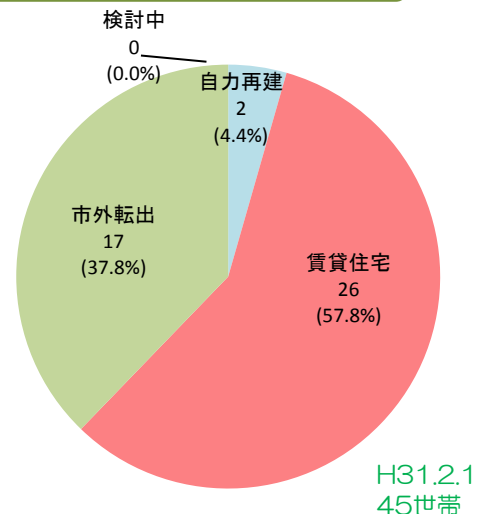
入居世帯の住まいの再建

- ・これまで再建された世帯のうち、約79%の世帯が仙台市内で再建されています。
- ・現在仮設住宅に入居されている世帯のうち、約62%の世帯が仙台市内での再建を希望されています。
- ・平成30年度末までには、特定延長及び福島県の帰還困難区域等から避難している一部の世帯を除き、ほとんどの世帯が再建される予定であり、これまで取り組んできた再建支援業務も、ひと区切りとなります。

震災時の居住地別再建状況



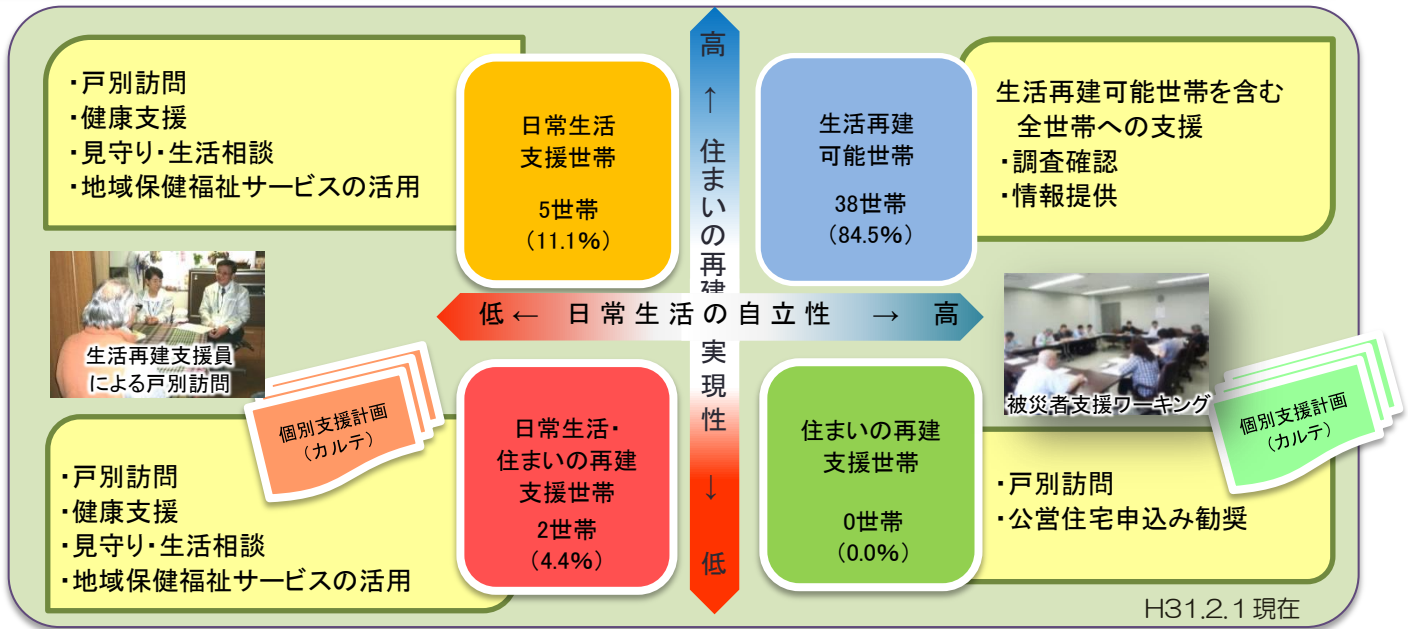
仮設住宅入居世帯の再建方針



※H24.3末(ピーク時)以前に再建した世帯を含む。

入居世帯への支援

新たな生活の場へ供与期間内に確実に移行できるよう、戸別訪問等を通じて課題を抱える世帯に対する移行支援に取り組んでいます。



● 仙台市の生活再建支援 ●

本市では、被災者の方の生活再建にあたり、応急仮設住宅を戸別訪問し、個々の実情に応じた伴走型の再建支援に努めてきました。また、再建後の支援として、復興公営住宅においても戸別訪問し、孤立防止に努めるとともに、地域における交流や支え合いを育むコミュニティ形成についても支援しました。

<応急仮設住宅での支援>

一軒一軒丁寧に「対面で話を聞く」ことを基本とし、世帯ごとの抱える課題を支援団体や関係機関と共有、各機関が役割分担しながら、「住まいの再建」の実現に向けて取り組んできました。



▲生活再建支援員による被災者訪問 ▲支援団体によるプレハブ仮設住宅訪問



▲市内で最大の入居世帯数となったあすと長町38街区仮設住宅



▲平成26年に入居が始まった若林西市営住宅

<復興公営住宅での支援>

出身地も年代も様々な被災者の方が一度に入居する復興公営住宅でも、入居当初に全戸訪問し、支援を必要とする方の把握に努めました。その後も高齢世帯や障害世帯を中心に、約2年にわたってフォローアップのための訪問を続けるとともに、並行して自治会等のコミュニティ形成や活性化に向けた支援を行ってきました。



▲復興公営住宅でのスイカまつり ▲復興公営住宅での交流会

今後の支援について

応急仮設住宅からの住まいの再建は着実に進んでおり、平成31年4月には市内の入居世帯が30世帯を下回る見込みです。全世帯が再建を果たせるよう、今後も支援を継続します。一方で、既に再建された方でも、今なお支援を必要とする方もおられます。被災者のこころのケアや復興公営住宅のコミュニティ活性化等、これからも被災者の生活に寄り添った支援を継続していきます。

この記事に関するお問い合わせ先：健康福祉局被災者生活支援室 TEL.022-214-8579

生活再建リポートは、**今回をもって最終号**となります。これまでご愛読いただきました皆様、ならびに編集・配布にご協力いただきました皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
 なお、毎月1日時点の市内の応急仮設住宅入居世帯数等の情報につきましては、引き続き市ホームページ(下記URL)により、毎月中旬頃お知らせします。
 ※URL:<https://www.city.sendai.jp/kenko-jigyosuishin/shise/daishinsai/fukko/sekatsu/index.html>